

「らしさ」を出せる 仲間がいる

私たちの住む宇和島市には、71,723人が暮らしていて71,723の「らしさ」があります。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で家族や友人と会えない人もいて、いつもなら直接向き合って本音で話しあったりやりたいことができたり、自然体でいられる「自分らしさ」が分かってもらえるのに。

そんなときでも「らしさ」をお互いに出し合い、認め合える仲間を地域でつくろうと活動している人たちがいます。それは、今始まったことではありません。昔から「差別」と闘ってきた人たちが積み上げてきた、すべての人が尊重され、認め合うことを大切にする想いが地域で紡がれてきた証です。

今月は、旧三間町のころから続いている1人ひとりを尊重する地域の取り組みについて紹介します。





三間中学校の生徒たちがある動画を作っています。それは、三間町隣保館で未就園の子どもとその保護者を対象とした親子の集い「りりんサークル」の紹介動画です。りりんサークルは、子育てをする親同士の横のつながりを作ろうと保育士だった山下美佐子さんが立ち上げました。当時、園に迎えに来る親同士の孤立した姿が目立ったことが立ち上げるきっかけでした。活動に必要なだった場所も三間町隣保館の皆さんが快く受け入れてくれました。初めのうちは活動資金などもなく、文化祭で使った後のかまぼこ板やペットボトルを譲ってもらって作ったおもちゃで遊びました。徐々に口コミで輪が広まり、今ではいろいろなおもちゃで遊び、館内を自由に駆け

「ここには楽しい仲間がいる」

回る子どもたちとそれを温かく見守る親たちの楽しく和やかな空間になっています。また、中学生が夏休みに子どもたちに絵本の読み聞かせをするなど世代を超えた交流の場でもあります。これまでの活動で、地域外から引越してきた親に「地域の仲間と過ごしているみたい」と言ってもらえたこともありました。子どもだけでなく、親にとっても、その地域に暮らしの中で「仲間」ができることは大切なことです。幼いころに親と一緒に通い、仲間たちと遊んだ思い出の1ページになるように。かつての思い出を胸に成長した中学生が、こんな素敵な場所をもっと皆さんに知ってもらおうと動画撮影に向けた練習に励んでいます。



シトラスリボンプロジェクト

－ただいま、おかえりって言いあえるまちに－



Citrus Ribbon
伊勢市立三間
中学校ではシトラスリボン
プロジェクトに賛同します

表紙や右ページ写真の学生がカバンにつけている「シトラスリボン」に気がきましたか。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めるシトラスリボンプロジェクトは、県内をはじめ全国に広がっています。本市でも早くから取り組み、現在もリボンの配布や作り方講座、写真の2人のようにマスクなど身につけるものへスタンプを押すなどさまざまな形で啓発をしています。誰もが参加できるこの活動。皆さんもシトラスリボンを身につけて参加してみませんか。

三間町では、「三間町人権あったかコンサート」を開催しています。

初めは、大人だけの実行委員会から始まりました。さまざまな取り組みを繰り返すうちに子どもと大人が一緒に活動する体制になりました。今では、北宇和高等学校三間分校と三間中学校の生徒を中心に運営しています。

コンサートの前半に小学4～6年生が歌や劇を発表し、中学生が人権問題についての日帰り研修などで学んだことや感想を発表します。後半は、人権・同和教育の講演や演奏が行われます。

今年度は成妙小学校の児童が、手話で「大切なもの」という歌を発表するということで練習を見せられました。練習では、先生が手話一つひとつに込められた意味を児童に伝えながら行っていました。ほかの学年に障がいがあったら手話で校歌を歌っている子がいるそうで、その話をしながらみんなが校歌をその場で手話で歌っていました。普段同様に障がいの有無にかかわらず学校生活を送っていて、同じ教室で練習する仲間だけでなく同じ学校に通う仲間が「自分らしさ」を出せる場所になっているようです。

みんなで作る「三間町人権あったかコンサート」

日 12月3日(金) 場 コスモスホール三間 (無観客)



自分にできることは、学んだことを心の中に留めておくのではなく、話すことで人々の中のハンセン病に対しての間違った知識をなくすこと。少しでも多くの人にハンセン病について正しいことを知ってもらえるよう伝えることが大切だと思いました。

研修後の報告会で、私たちが大切だと思ったことは、誤った知識にまどわされず正しい知識を知り、自ら学んだことを周りに伝えていくことです。今回は入所者の人たちに直接会えませんでした。また長島愛生園に行ける機会があれば会って直接話を聞きたいです。

「三間町人権あったかコンサート」を開催するにあたり、中学生が日本初の国立ハンセン病療養所「長島愛生園」を訪問しました。訪問した生徒の感想を一部抜粋して掲載します。

中高生たちからは、研修で発表する感想文を見せてもらいました。現在の新型コロナウイルス感染症拡大による誤った情報や誹謗中傷による差別や偏見が起きていることに対して、「ハンセン病のときと同じ過ちを繰り返していると思う」という言葉がありました。正しい知識を知らないことや間違った情報によって、今でも人を苦しめる「差別と偏見」をなくすために闘っていかなくてはならないと感じました。

こうした子どもたちが大人たちとともに創りあげる「三間町人権あったかコンサート」には、これまでの三間町の歴史の中で積み上げられてきた人の心をあつたかくする想いが込められています。

今年、新型コロナウイルスの影響により無観客での開催になりますが、このコンサートを観て発表者たちの「伝えたいこと」が1人でも多くの人に届くことを願います。

①②令和元年のコンサートの様子③④発表の練習をする小学生



学芸員さんの説明にあった「まだ少なくともこの療養所の中では、ハンセン病に対する差別はなかったのようやく人間らしい生活が印象に残っています。これからもっと正しい知識を広めていく必要があると思います。」

ハンセン病がというよりはその人々の反応や対応、国の対応が過剰だったと思います。学芸員さんたちの言葉から「ここにいる人たちは、このような辛い状況でも強く生きた人たちだからそれを知った上で見てほしい」と聞き、考えが変わりました。私たちにできることは、今回学んだことを伝えることだと思います。

長島愛生園に行く前は、ハンセン病療養所での隔離された生活の厳しさをよく理解していません。90年という長い間差別が続いていることが想像をはるかに超えるもので、悲惨な現実を知りとても悲しい気持ちになりました。これから身に付けた正しい知識をさまざまな形で発信していきたいです。



左から 岡崎 八恵子さん・山下 幸二さん・山下 辰男さん・山下 美佐子さん

積み重ねてきた想い 仲間とつないでいく

ここまで紹介してきた取り組みはもちろん、三間町で行われていることは、過去に差別や偏見と闘ってきた先人たちの想いとともに関き継がれてきました。今もなお続く「であい・ふれあい・みんなの人権講座」もその一つです。この講座は、岡崎さんをはじめとした推進委員が三間町の全30自治会を回り、そこで暮らす人たちが集まって人権について学ぶ機会をつくる取り組みです。今は新型コロナウイルスの影響で実施できていませんが、部落差別をみんなで考えていきたいという想いから、「来てもらおうのではなく、そこに出向き膝を突き合わせて話したい」という気持ちで立ち上げ、40年以上続いています。近年は、自治会の人たちの考え方もさまざまです、その変化に対応していく必要があると感じているそう

です。そんな中でも岡崎さんは、この活動に参加することであいさつをすることや話をするのがきっかけになり、地域の輪が広がっていると感じています。こうした地域に根付く取り組みは、そこに暮らす人たちが顔を合わせお互いのことを知ること、新しい仲間に出会えるきっかけ作りにもつながり、同じ想いを持った仲間とともに次世代へとつなげられます。あなたには今、「自分らしさ」を出せる仲間はいませんか。もし、きっかけが欲しいと感じている人は、今回紹介した活動に参加してみると新しい発見があるかもしれません。三間町のような取り組みが市全体に広がり、宇和島に暮らす1人ひとりの「らしさ」が輝くまちにしていきたいでしょう。

市政広報番組でも人権について紹介しています(11月5日(金)以降) >>



この機会に、身近な人権について考えてみませんか

吉田町 人権をまもる集い

- 📅 11月16日(火) 午後1時30分～3時 📍 吉田公民館
- 📞 手話コーラス、歌、講演会
- 📎 50人(先着)
- ※オンライン配信も行います。

宇和島市

人権を考える市民の集い

- 📅 11月30日(火) 午後1時30分～3時10分 📍 城東中学校
- 📞 坂本 博之さん(元プロボクサー)による人権講演会

笑顔の集いinつしま

- 📅 12月1日(水) 午後2時～3時
- 📍 津島中学校
- 📞 星野 ルネさん(タレント、漫画家)による人権講演会

詳しくは、お問い合わせください。

📞 人権啓発課 ☎ 49-7034